

特集 東日本大震災3

# 被災者に迎えられて

チャーチ&ホームスクーラーボランティアの12ヶ月  
(第5回~第7回報告)



稲葉寛夫 (チア・にっぽん代表)

▲釜石・浜町の皆さん、感謝会してください！  
(2月 浜町町内会館にて)

まず、前号で約束しました第5回東北サポートの様子をレポートしますね。第5回は初めて、アメリカ人ホームスクーラーたち5人を迎え、現在の外務副大臣、山口つよし内閣府副大臣（復興等担当）を訪問。その後、富士山麓チア・サポートスクールを訪問。その後、富士山麓チア・サポートスクール英語キャンプに向かいました（マガジン35号48ページ

## アメリカチームの合流した 第5回東北サポート



▲「似合いますよ！ とっても！」(同上)



▲ チームUSA 山口つよし内閣府副大臣(復興等担当)とのミーティング開かれる(8月 内閣府副大臣室)

考えている姿が印象的でした。

## 体験を分かち合ってください、被災者の皆さん

2日目、釜石

では、いつも支援を行ってきた浜町のA町内会長に連れられて、

初めて、仮設住宅の方々を訪ね、物資のサポートを行いました。

これまで同様、聖句を掲げた4トントラック、白と青が鮮やかな「信じる者がみな、キリストにあつて永遠の命を持つためです」(ヨハネ3:16)の前に、1500人あまりの皆さんが集まってくださいました。「少しでも、応援と祈りを届けたいとの全国のクリスチャンの気持ちから」と自己紹介した私たちを温かく迎えてくれました。

今回の特徴は、被災者の皆さんが、これまでにも増して、いろいろな体験を分かち合ってくださいましたこと。子ども

を参照ください。

富士山麓から東京に戻り、翌々日、釜石方面に向けて東京を発ちました。福島県にさしかかるところから、放射線の濃度が上がり、ガイガーカウンタが鳴り始めます。音の鳴り出しは、チェルノブイリで設定された0.3マイクロシーベルトにしてあるので、いわき市を過ぎたあたりからは、ずっと鳴り続けます(0.4~0.8)。宮城県に入ると、数値は出発時の東京のレベル(0.18等)以下になります。

陸前高田市に入り、被災した車、千台以上が集積されている場所で下車し、皆で少し時間を過ごしました。バスで元気がだったUSAチーム、一人の表情が変わり、ことばを黙して、いろいろと

### ▼ 釜石・仮設住宅にて(8月)



服を見てたおばあちゃん、お孫さんを1人、亡くされたそうです。残された、もう1人のお孫さんのために、服を持っていきました。お葬式を、通つた幼稚園の牧師さんがしてくれたそうで、その時、とても慰められたのだそうです。今度、教会行ってみようかなって言っていました。「友達がクリスチャンで、今まで、意地悪してたそうです。でも、



津当日の被災の様子を分かった（釜石・浜町）  
▶ 震災の波が合つてくた（9月）

今度から、やさしく接しますって言つて帰つていかれました。「足が悪くて取りに来られないお婆ちゃんがいるから、届けてほしいって言われました。行つていいでしょうか」「ぜひ。よろしく。Bさんと2人で行ってきて」「おばさんから、勉強になるから、中に入っ

て仮設の暮らしを見て行きなさいと、招いてもらいました。そこでリポビタンDをもらいました」。

私に話してくださったのは、津波の濁流の中で回転し、背骨と足の骨を折りつつ、奇蹟的に一命を取り留めた方です。最近、退院したばかりのおじいちゃん。状況を15分ほど話してください、一緒に聞いていたUSAチームは、聖書を渡しました。「ありがとう。助けられた命だからね。これ、読むよ」。そのほかの人々も、喜んで、受け取つてくれました。

その後、釜石港に向かい、以前訪ねた、防波堤に乗り上げた、外国籍の超大型貨物船を視察。まだ、当時のままの痛々しい姿でした。

## 無名の仮設住宅へ・陸前高田

その後訪ねた陸前高田市では、一つ、冒険をしようと思えました。同市には、約40ヶ所に仮設住宅がありますが、ボランティア等がよく訪ねる所とそうでない所と大きな格差があると聞いていました。それで、誰も行つてない所を訪ねてみようと思つたわけです。「このエリアは、ほとんど、手が届かないですね。私自身も行ったことがないので…」と社会協議会の方が話していました。

久々に、事前のアポや知人の紹介無しで「飛び込み」訪問です。最初の家の方に町内会長さんの

部屋を教えてもらいましたが、不在でした。一緒に行つた堀井卓さんと、「稲葉」この方法だめかもしれないですね。今は、午後で不在の方が多いみたいだし、お昼寝時みたいで、ありがた迷惑かもしれないし」「堀井」そうですね。これはちょっと、だめかなー。どうしようか、と思いつながら、折りつつ、町内会長さんの隣をノックしてみたところ、出てくれました。「稲葉」今、物資のサポートをと思つて…」と話しかけた時、先ほどの最初の家の方、Cさんが心配して見に来てくれました。「稲葉」町内会長さん、お留守だったみたいです。それで、今、隣の方に聞いてみようと思つて…。でも、あまり必要なければ、無理にはないので、他をまわろうかと思つていました。必要、ありますか」「Cさん」必要あります！。Cさんは、きっぱりと大きな声で答えられました。

ちよと遠慮モードで何つた私は、その二途な声を聞き、面くらいました。これは、本当に「一ツが切実なのだ」と思いました。「Cさん」この仮設は、皆さん、家も家財道具も、きれいさっぱり、全て流された人ばかりです。何が必要かという、全部、必要なのです。その声を聞き、開催を決定。みんなは40戸ある仮設住宅をノックして開場を知らせ、約40名の人々が集まってきました。

「Cさん」ここには、皆さんのようなボランティア、来てくれたことないのです。ボランティアのニーズ

を聞いても私たちには、別世界のことで。私たちは忘れられた存在なんだな」と寂しかったのです。だから、とてもうれしかった」。Cさんの目には涙が浮かび、とてもうれしく思いました。「私は、チリ地震の時とか含めて、津波に3回、あつんだよ。でも、こんなひどいのは初めてだった」と、年配の方がUSAチームに話してくださいました。渡された聖書を「読むからね」と受け取り、胸のポケットにしまってくださいました。

## 殺菌用のEM剤の配布

### ——気仙沼

翌日は、気仙沼で殺菌用のバクテリア（EM）剤を配布しました。これまでは、チアの独自の出会いの中での仕事でしたが、今回、初めてサマリタンス・パースを通して依頼された仕事でした。皆で汗びっしりになりながらの実施、道で会う人々から、「うちの庭でもやってくれないか」「うちのそばの野原でやってくれないか」「駐車場を頼みたい」とリクエストをいただきました。卓さんが、「収穫したてのトマトをくださいました」ともらってきました。午後は、支援物資の基地となっていた教会の大型テントの移設や雑草取り、そこで、今回、教会が全て流されたD牧師と再会しました。



殺菌のためのバクテリア剤(EM)の散布(9月 気仙沼)

## 子どもたちが見た津波 ——仙台市若林区にて

日頃、ぼくとつとして、お世辞とか言わない仙台市若林区の材木工場のE社長から電話がありました。「この前、ずいぶん、皆さん、喜んだみたいで、評判すごくよくて、びびくりするほどでした。みんな楽しみにしているみたいで、今回もよろしくお願いします」。こうした、うれしい声をもらいつつ、材木工場での3回目の物資サポートを行いました。「この近くの小学校では、避難した子どもたちが、

上の階に登りかけた最中に、どつと津波が来たんだ。順番待ってた、じいちゃんや、ばあちゃんたちが、目の前でたくさん流されていったんだ。小学校でも危ないってわかって、『子どもたちをまず先にあげる！』って、みんなで子どもたちを優先したんだ。子どもたち、みんな、じいちゃん、ばあちゃん、流される様子見てるから、今、大変なんだよ」「あの夜、その堤防に置いてたトラックを取りに来たんです。そうしたら、地獄絵図だった。真っ暗闇のあちこちから、『助けて！』『見捨てないでくれ！。ここにいるんだ！』って叫び声が聞こえる。でも、海になつてるから近づけない。ライト照らすと、20メートルぐらい先に屋根が浮かんで、その上とか、木の先にとか、つかまって浮かんでいる。『今、ボート借りてくるから、必ず来るから、がんばれ！』って言うて、消防団から借りてきた。近づいたら、たくさんいて、ピストンで20人ぐらい運んだ。でも、木につかまったら、息絶えて、真っ白になってた人や水に浮いている遺体もたくさんあった。場所は、ここだよ。あそここの木の所だよ。本当に地獄だった」「この隣は、堤防でしょ。だからたくさんさんの遺体が流されてきた。自衛隊の捜索が終わった後、最近も2人の遺体が、ここの材木屋の庭で見つかったばかり。かわいそうに。1人は首がなかったんだ……」

## 土のう袋1100袋の 泥だしのリクエスト

その後、近所で泥かきと事務所の壁や床の水洗  
い。泥とホコリで真っ白になりながら、みんなよく



がんばりました。

「もしお願いできるなら、この次、泥だしお願い  
したいですが。床はがしは終えておきますので、9  
月の中頃だと丁度、いいのだけど...」「それは、感  
謝です。スケジュールだけ、少しずれて良ければ。  
かなりの量なので、人数、そろえる必要あつて...」。

かつてないレベルの泥だしの量が

▲ 瓦割りも、大量！  
(10月 仙台・若林区)

◀ 過去最大の泥だ  
しを、49名で、全力を  
尽くして！(同上)



予想されました。後日、実際には、さらに屋根の  
瓦やほかの家々の依頼も増えて、大型の土のう袋  
1100袋分もの量、重さ約33トンへと、増えてい  
きます。

10月中旬の第6回まで待つてもらつての実施とな  
りましたが、そのような仕事を頼んでくれる信頼  
関係が生まれていることを、僕はうれしく思いま  
した。実は、これらの仕事は、市のボランティア  
事務所に頼めば、数日待てば、やつてもらえるこ  
とと思います。でも、あえて、1ヶ月半も先の  
私たちに頼んでくださることに、ただ、仕事を  
頼みたいというを超えた気持ち、「絆」みた  
いなものを感じ、感謝したのでした。

## 第6回東北サポート—— 33トンの泥かきほか、 恵みの中で終える！

皆さんにお祈りいただきました第6回チア東  
北サポートは、神さまの恵みと祝福の内に終え  
ることができました(2011年10月17日〜22  
日)。

今回は、これまでで最大の量の泥かき等頼ま  
れていて、やりきれるかどうかが、最初は、とて  
もプレッシャーでした。結論から言いますと、啓  
明スクールの皆さん22名を含め、49名でトライ。



▲ 割った瓦を袋へ、一袋・約30-40キロ！(10月 仙台・若林区)  
▼ 土のう袋・1100袋(約33トン)の作業を終えられた！



痛んだ人々のためにできるの。仕事を終えて見た澄み切ったオレンジの夕焼けに、皆で歓声をあげました。

後日談を、少しお伝えしますね。この作業、建設現場の方々からは、『3日で終わ

## クリスチャン団体・個人の助けゆえに—— 国際飢餓対策機構からのバックアップ

国際飢餓対策機構の皆さんが、震災初期から、ずっと最前線で物資の補給や、様々な支援活動がされ、私たちは、ずっとお世話になっていました。でも、10月いっぱい撤収されると伺い、寂しい別れとなりました。

私たちは、東京で4トントラックを支援物資で満載にしていますが、鮮度の関係で、肉や魚とかを持つていくことはできませんでした。そんな時、国際飢餓対策機構の皆さんが、肉を特別に補給してくださったことがあり、被災地の人々には、とても喜ばれました。また、持つていく場所が、3、4ヶ所になるので、事前に計算して分けて持つていきます。でもある時、予定した以上に、物資支援の機会を与えられ、最後に仙台市若林区のために残しておく予定の野菜や果物が全部、無くなってしまうことがありました。釜石・陸前高田地域から仙台への移動距離は長く、自分たちで買う時間もありませんでした。それで、急遽、電話をし、国際飢餓対策機構の皆さんに、買ってお願いももらったこともあります。

軒下の泥や屋根瓦等、大型の土のう袋1100袋、重さにして約33トンの量を運び出す仕事を実行できました。ボランティアのレギュラー参加陣からは、「これまででは、5月の第3回のへ下口かきが番、きつかった。今回は、それをダントツ上回る。最高にきつかった！でも、すごく気持ちいい！」「途中、もうだめかと思った。でも、成し遂げることができて、すがすがしい達成感！」といった声。

ティーンたちの幾人かが「腰が……つぶれそう……」「このボランティア、すごい。筋肉、つくんだよねー。前回はすごい恵みだと思いましたが、今回、この堅くなってるもの」。これはすごい恵みだと思いました。日頃、体育会系のように倒れるまでトレーニングという機会が多くないと思うし、それが自分のためだけでなく、

るかどうかな」と言われてのスタートでした。これまでの体験から私は、4日かかるかも……と思いき、釜石、陸前高田グループと分ける案も考えました。でも、「Fさん、18才、啓明のみんなはすごく良く働く。しっかり鍛えられている！」といったすごい援軍が啓明スクールから送られ、49名のチーム全体が啓発しあい、すごい集中力とパワーで前進できました。

並行して、物資のサポートも釜石、陸前高田、仙台市若林区、そして東松島等で行え、被災者の皆さんとの交わりも一層、深く与えられました。被災体験を話してくださったり、聖書を求めてくださる方もさらに多く与えられたことも今回の特徴でした。

日頃の活動を通して、全国、世界各地からのいろいろなボランティアに富んだ支援物資を確保されてきました。被災者の皆さんの年齢、家族構成が違うので、そのニーズも、様々で、国際飢餓対策機構の倉庫に寄らせていただき、さらに多くの種類の支援物資を補給し、伺うと、さらに喜ばれます。また、多品種が山積みになっている倉庫にて、チャのティーンたちは、「何が被災者の皆さんのニーズに合うか考えて、一人3点、もらってくる」等、マーケティングの勉強もさせていただいたり、夏みかんを1500個ほどもいただいて南三陸に持っていき、そこから後の親しい関係が広がるきっかけとなったり：お世話になったことは数えきれません。チャ東北ボランティアの展開が許された背後には、こうした国際飢餓対策機構とか、多くのクリスチャン団体、個人の皆さんとの出会いや助けがあつてこそだとお礼と共に、書かせていただきたいと思えます。

## 神さまの導きの中での 震災ボランティア・ネクスト

12月30日の夜、日本のチャ・オフィスに着いてTVをつけると、震災特集をやっていました。被災地で亡くなった家族のドキュメントでした。釜石とか、陸前高田とか、僕たちが何度も訪ねた場所のすぐ近くのルポでもあり、地図を追いながら涙して

見ました。元旦には、去年、知り合った、南三陸や大船渡の被災者の方々から、電話をいただいたりもしました。まだ、神さまは、東北ボランティアで、もうひとがんばりするよう声をかけてくれているのかなーと思うようになりました。白馬以降、映画の方がすごく忙しく、すでに日米の3往復ともなり、震災ボランティアは、夏まではできないかなーとか思ったりしたので(；；)。でも、それはそれで、やっていく必要と導きを思いました。

## 第7回東北 サポート・レポート

今回(2月13日〜18日)、まわった各地(釜石、陸前高田、石巻、仙台市若林区)で、「今度、いつ来られますか」と聞かれました。回を重ねたこともあり、これまで以上に、被災者の皆さん、心を開いてくださり、町内の集会所で感謝会を開いてくださったり、子育



での悩みを話してくださったり、聖書を求めてくださったり…と、とても感謝でした。

## 初日（陸前高田にて）—— 厳寒の中で、3月11日の 厳しさを思う

初日は、陸前高田を経由。これまで10数回、行き来しているものの、一度も立ち寄っていないかった『市役所周辺』の被災地を歩きました。2月の陸前高田はとても寒く、夕方になり、一層、厳しい冷え込みでした。去年の3月11日は雪が降っていたわ



▲ 去年4月初旬。電気も水も無く、とても寒かった…(第2回チア東北サポート)

▼ 今年2月。完成したんだ！と大感激。オンドル床暖でほかほか！(第7回同上)



けですから、もっと辛かったはず。海水につかり、がれきにつかまりながら、びしょびしょで数時間、数日と過ごされ、あるいは途中で、力尽きて息を引き取られた皆さんが、どれだけ寒かったことか…と改めて思われました。

市役所は、内陸の少し高台に建てられ、鉄筋の大きな威容を誇る建物です。それでも、4階まで水につかったとのこと。その時、完全に水没した3階までは、今も破壊されたままです。窓は全て打ち破られ、切り裂かれた灰色のカーテンが寂

しように、寒風にひらめいていました。実際に、市役所の敷地に立ち、4階を見上げ、それに至る津波の高さを想像するにつけ、改めてその衝撃を思いました。その周りは、3階建て等の数軒の建物を除き、根こそぎ家々が無くなり、礎石だけの広大な平地になっています。ちよと遠くには、消防団の人がたった1人だけ生存者を見つけたという、大きな市立体育館が見えました。

陸前高田市は、町としては、ずいぶんきれいになりました。3ヶ月前には、700〜800台の被災した車が山と成り置かれていた場所にも、車は無くなりました。その代わり、これまで内陸部には無かった、高さ20メートル以上の巨大ながれきの山が、クレーン車やブルドーザーらで、きちんと分別され、いくつも出来上がっていました。外見的には、ずいぶん片付いた感じでした。でも、クレーン車の音以外は何もありません。静まりかえった町の跡を、寒さに凍えて歩きつつ、改めて、厳しさと悲しさを思いました。



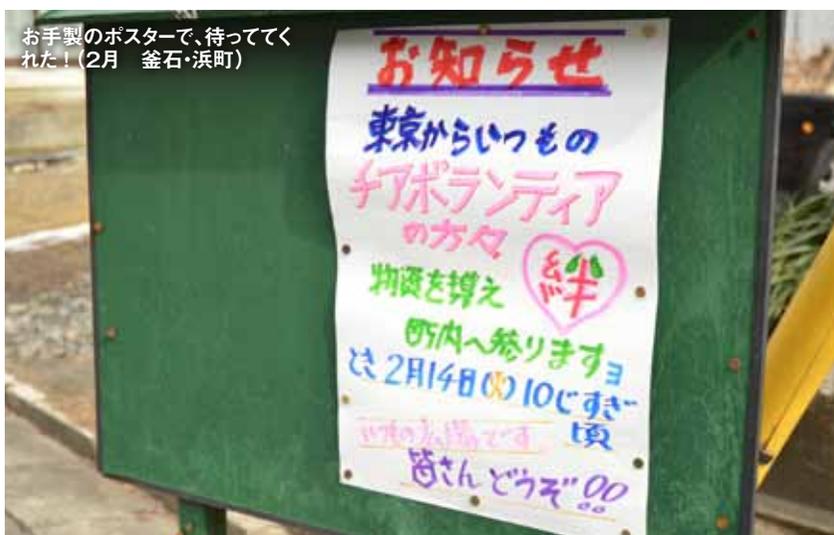
▲▶ 陸前高田・  
港町の仮設住宅  
にて(10月)



大船渡では、いつも宿泊でお世話になっている教会へ。礼拝堂が、すごくきれいになっていて、感激でした！ オンドルフつきで、そこで休んだ女子チームは、超ほかほかだったとのこと。夜、様子を見に来てくれた隣のF夫人と少し話せました。津波の時は、庭に寄せた水に足をすくわれて、2時間ぐらい、流れてきた板につかまっていたそうです。庭の松の枝に、板と一緒にはさまれ、2〜3メートルぐらいの高さで浮いていたそうです。この間に玄関では、お義父さんが命を失っています。F夫人は、庭に塀があったので、引き潮で持つて行かれなかったとのこと、それから、イエヌさまが何とかしてくれると思って、心が落ち着いていたとのことでした。

## 釜石にて——街角のポスター 「いつものチアの皆さん、 町内へ——絆」

翌日、釜石では、町内の掲示板等に、「東京からいつものチアの皆様、物資を携え町内へ参りますヨ。絆！」とオレンジやピンクやライトグリーンのパステル調で書かれたお手製のポスターが貼ってあり、感激でした。いつものように80名あまりの皆さんが集まってくださり、物資配布。最初に恒例となつた『あいさつ』したら、おなじみの人々が笑顔で、時々涙も拭きながら、話しを聞いてくれました。今回



お手製のポスターで、待っててくれた！(2月 釜石・浜町)

も、ネギやかぼちゃやきのこやほうれん草や大根といった新鮮な野菜、そしていちごやりんごやオレンジといった果物、ミソやしょうゆ、ドレッシングや消耗するティッシュとかの日用雑貨、土のう袋に、冬服100ケースと4トントラックに満載で持つていきました。今回、初めて1品だけ、チア・メンバーか

ら提供された消費期限切れの「パン」を80袋ほど持つていたので、特にその説明をしました。

## 消費期限切れのパンの冒険

「みなさんのこと、親戚の親戚のような思いになつて、顔見たいな」と思って、今回も来ました。一つだけ、お伝えしておきたいことがあります。このパンだけ、消費期限切れです。神奈川にある、アメリカ系の人気の量販店が、チアのメンバーに卸してくれたのです。これが、自分の母や、東京の友達に渡すのは、何の躊躇もありません。著名なパン屋さんでも、タイムセールとかで、1パック500円とか3パックで1000円で売ってるし。気になる人は、笑って『いいよ、いらないよ』と言ひ、僕も笑って『そうか、いらないの(ハハ)？』と受けとめます。でも、今回、特に、被災地の皆さんなので、止めようかと思ひました。100人いたら、そのうち1人でも嫌な思ひをされたり、誤解を生んで心を傷つけてはならないと思つたからです。それでいったん止めることを考えたのですが、思ひ直しました。自分のお母さんや、近い親戚にだったら、どうするかな一と思ひました。きつと、笑つて、消費期限、4日過ぎてるけど、冬だし、どう？ 有名なパン屋さんのだよ、と聞いてみるだろうなーと思ひました。それで、皆さんのことも、先に言ひましたとおひり、親戚



▲ 話しが弾むようになってきた！(2月 釜石・浜町)

の親戚みたいに思っているの、大丈夫では…と思いき直し、初めてトライしてみることになりました。ちなみに、昨日、東京から来る途中、バスの中で、子どもたちと一緒に全員食べ、試食してみました(みんな大受けしてくれました。『試し済みで何か。ワハハ(笑)』)。そうそう、毒味して、今のところ、誰もおなかを壊していません(会場の皆さん、再び笑う)。でも、気になる方は僕たちの気持ちだけ受け取ってくれば感謝です。そのほかの物資は、皆、新しい物です。

全国のクリスチャンたちからの支援で買ってきたものです。それと、素敵でセンスのいい冬服。いつもながら微力で、わずかですけれど、皆さんの祝福を祈っている証として受け取ってくれば感謝です。本当に皆さんへのイエスさまからの祝福を祈っています」として、スタート。

透き通ったビニール袋に6、7個入れた80人分用のパンは、ほかの新鮮な野菜や果物と共に、まっさきに無くなりました。「稲葉さん、パン、無くなったよ!」との担当していた子どもたちの声が聞こえました。何か、被災者の皆さんと、気持ちが一層通じあえたみたいで、特にうれしかったです。

## 感謝会、開いてくださる!

配給後、町内の集会所で、8名の皆さんが、特別な感謝会を開いてくださり、それも感動でした。振る舞われた、あったかいコーヒー、いつもはコーヒー苦手な僕も、喜んでいただくことにしました。格別においしかったです。

## テレビの津波、見たくない!

感謝会で、「今もテレビの津波見たくない。本当に津波が来るようで…」と心境を話してくれた奥さんのGさん。町内会長のAさんが、「私たちの町



▲被災した思いを話してください。(2月 町内会館での感謝会)

内の元気な頃も見てほしくて」と地元伝統行事の虎舞のビデオを見せた後、「この後、3月11日に撮影したビデオも見てもらおうかと思っています」と言うと、Gさんは「いや、Aさん、それはやめよう。見たくないよ。元気のいい虎舞を見せようよ!」とのこと。そのお気持ち、痛みを察しました。

「(Aさん)ま、そうだね。でも、せっかく東京から来てくださった皆さん、私たちのこと、心配してこられるし。勉強のために、見てもらいたらいいのではと思うけど、どうかな...」。Aさんの温かいことばに、Gさんも、ほかの皆さんも賛成して、第一波の津波

が来て数分後からのビデオを見せてくださることとなりました。多分、この町に来たのは、6回目。だから、ビデオに映る家やビルは、「あそのビルだよ。あと、そのピンクの建物...」とか、参加者が全員わかるころなので、リアルです。また、ビデオは、逆スウィッチになっていて、Aさんが山に避難し、駆け上がっている時の15分ぐらいがずっと撮影されていました。当然ですが、とても動揺されていたのだらうなーと、かえって衝撃の強さが伝わってきました。

**みんなの目が  
とつてもきれいな!  
私には、わかるの!**

それぞれの皆さんが、思いを話してくださいました。Gさんは、「若い人々や子どもたちが、ただでさえ少なくなっているのに、今回の震災で、それが一層、厳しい状況になりました。正直言って、釜石はもうだめかなと絶望的になる。そこに、若い皆さんがこうして何回も来てくれて、それだけで希望を感じるし、励まされて、勇気が出てきます」。Iさんは、「娘の会社が流されて、倒産しました。家も流されて、ずっと失業、リウマチにもなり、体もおかしくなつて、それが心配で、心配で。最近、再就職できて、ようやく少し、ほっとしているんだ

けど…。Jさんは「この町、水産業が大きな力だっただけ。浜はさびれる一方で、その上、今回の津波で、もう…。Kさんは「あのときは、みんなで炊き出しやった。Gさんも、自分の食べる分を削って、お米出してたね。この町内のみんな、そうだった。助け合ったよ。Lさんは、冷凍庫の会社ややってるんだけど、それを開放して。みんなで助け合ったね」「Gさん)いやあ、私は、途中で恐くなつて、盛岡の息子のところに逃げたんだよ。そして、さっき言ったみたいにテレビもつけられなかったし、津波の話は一切しなくなかった。息子からは、しっかりと！と何回も言われたけどね。でもね、そんな私たちにさ、皆さんが、このように何回も来てくださることがどれだけうれしいか、皆さんもわからないと思うよ。とつてもうれしんだよ。励まされてるんだよ」「A会長)私も若い頃は、こうでしたっけかな(笑)」「Gさん)いや、そうじゃないの。皆さんの純粋な心が、私には伝わるの。本当に、純粋な心、だから、目がとつてもきれいなんだよ。私は、その皆さんのきれいな目に励まされてるんだよ」「Iさん)Jさん)Kさん)Lさん)いや、本当だ。Gさん、よく言ってくれたわ。それが私たちの気持ちだよ。本当に、私たち、感謝しているの！うれしんだよ」「稲葉)ありがとうございます。

そう言ってもらって、本当にうれしいです。それでは私たち、最後に祈らせてもらっていいでしょうか」

## キリストさんのちから

集会所を出たところで、何人か別れを惜しんでくださったいました。浜のお母さん方と話していた能登麻里スタッフに後で何を話していたか、聞きました。「祈っている時に、Mさん、涙が止まらなくてしよがなかつたって」「稲葉)Mさんって、さっき、私が最初、去年の4月に話しましたって言った方だよ。確か、堀井洋一さん、卓さんと僕と、4月に飛び込みでこの坂をまわった時に、玄関で立つてた方か、掃除してた方かな」「(洋一さん)うん、そうだと思うよ」「(能登)とにかく、泣けて、泣けて、涙が流れてしよがなかつたって…。それを聞いてたGさん、これって、キリストさんの力だね！って、十字を切っておられました(笑)。キリストさんの力を感じるって…」

感謝でした。物資配布のとき、何人かの人々が、自分から、「これ、もらっていいですか」と聖書をもらっていかれました。それも感謝でした。

## 陸前高田にて

### 「2年前に会いたかった…」

感謝会、ぎりぎりの時間まで滞在した関係で、午後は、急いで陸前高田へ。30人あまりの方々が集まってこられました。同じように、パンと全国のクリスチャンからの応援の説明をして、配布スタート。こちらも食品や消耗品は、15分も経たずに、あつという間に無くなりました。あとは、冬物の服を皆さん、じっくりショッピングをするように楽しんで探し、持つていかれます。良かった！

特にうれしかったのは、コーディネート役のCさんとの会話。「Cさん)2年前に、お会いしたかったです」「(稲葉)え？ 2年前ですか？」「(Cさん)2年前の1年間、進学を考えていた息子が我が家にすつといたのです。この前から、チア・マガジン、何度も読みながら、親として、あの時、こうすれば良かったんだーとか、こんな考え方、とらえ方があるんだーとか、参考になることがたくさん書いてあった。あの時は、そのような情報を探せなかった。それが残念で、心残りで…」と真剣に話してくれました。「(稲葉)聖書に、すべてに時があると書いてありますから…。神さまの思いは僕らの計画を超えていますので、神さまの計画はすこいです。今からでも、できることあると思います…」と答えました。でも、この応答でなかった方が良かったのかな…と複雑でした。とにかく、そこまでチア・マガジンを読んでくれ、また、心を開いて話してくださり、とても感謝でうれしかったです。



▲ 壁はがし——ハンマーなどで津波やヘドロに浸った壁を割り、最後は壁板を手ではがす(2月 石巻)

話しているうちに、「ストレスで、目が見えなくなってきた…。いや、年のせいかな」とのこと。でも、きっと、家屋も全て流されて、仮設での生活は何かと大変なこともあるだろうし、牡蛎とか養殖

し。石巻は大きな町で、また半壊の家が多いせいか、根こそぎ無くなった陸前高田や南三陸よりも復興が遅れているような気がしました。壁はがし、床はがし、泥かき…との作業は、体力的にはきつかつ

## 石巻 壁はがしや 泥だしの2日間

の水揚げが2、3年は見込めないとのことですので…。いろいろなことで重い心労が積み重なって、心理的にも体力的にも、霊的にも、負担になってきているのだらうと思えました。翌日、Cさんから、「昨日はありがとうございます。パンは今朝、美味しくいただきました。この近くには店がないので、皆、喜んでいましたヨ」「ヨ」とメールもらい、これもうれしかったです。

翌日から2日間は、サマリタンズ・パースの依頼を受けて、石巻での泥出しや壁はが

たけど、感謝でした。みなほごりにまみれました。高性能のマスクの内側も、ほごりまみれでした。でも、このような仕事が与えられたことはとても感謝でした。

2日目は、家主のOさんも一緒でした。「稲葉）台所や、トイレの下がこの家でも湿度が高く、じとじとしてヘドロ状態で大変なんですよ」と話したら、Oさん、やはり、そこ、気になったようです。そこで、床板をはずして残った狭い骨組みの中に入り、全身うつぶせになって、はいつくばって、泥をかき出しました。しばらくして、起き上がろうとしたら、パズルのように順番に足腰を動かさないと、まったく起き上がれなくなり、床下から、しばらく出られなくなっていました(笑)。

トイレの床下は、やはり、今でも生っぽいヘドロがありました。津波で流されてきたがれきやゴミも、ずいぶん残っていました。さすがに、ばい菌に負けなように祈りつつ、でも、チアのPさんからボランティア全員に贈呈されたゴーグルと高性能マスクと固い手袋と、近くの建設用品店で買った工事現場用の厚い「つなぎ」と、そして、イエスさまを頼りに、果敢にやりました。やりきると、何でも楽しいものです。ヘドロ等、やっかいなものは、ほぼ終えたところで、「大人しかできないの」と電動のこぎりの作業をするように、サマリタンズのRさんから指名されました。残りは、ホームスクーラーのSくん

にバトンタッチ。この作業、水産加工場や待浜でのへドロかき以来、久々の汚れ仕事でしたが、これをしたお陰でOさんと心が通じ合えた気がして、とても良かったです。

## 去年、手伝った水産加工場、 見事に復興、稼働間近らしい！

初日は2チームで、啓明スクールチームが合流した2日目は4チームで4軒に分かれての作業。卓さんチームは、4月、5月と作業をさせていただいた石巻の高橋さん宅のそばでの作業だったため、高橋さん宅に寄り、あいさつし、写真を撮影してきたとのこと。すごく回復し、水産加工場も稼働間近だそうです。高橋さんの若社長も、完全な「社長」の雰囲気で、へどろにまみれて一緒に復旧作業していた頃と雰囲気が違い、さうそうとし、見違えるようだったそうです。高橋さんとは、時折、電話で話してはいましたが、今回、石巻に行ったのに、僕のチームの家は少し離れていて時間的に会えなかったのも、個人的には残念でした。でも、みんなの話では、とても良い感じだったというので、それがうれしかったです。いつか、訪ねたいな一と思つてます。

## 純白の雪と 青空での トラクト伝道

最終日、金曜日は、午前中は仙台でトラクト配布。毎回、最終日が、キリストの福音のパンフレット配りが恒例となり、とても感謝です。

昨夜、降つたばかりの純白の雪、青い空。風もなくほかほかした暖かい日差ししの静かな街並み。その環境の中で、伝道パンフを郵便箱へ。なんて気持ちのいい時間でしょうか。雪かきしている方々や、道行く人や大工さんがもたらしてくれるのがうれしい。

4トントラックを運転してくれた、仙台在住の松岡淳裕さんが、昨日、言っていました。「チ



▲ 聖書のパンフレット配達も恒例になった(仙台)

アは祝福されますよ。この天候、信じられない。野外での物資配給のある火曜日から、突然、ずつとほかほか陽気ですよ。特に日曜までは、この冬は全然違いましたから。寒ければ、配る方も、もらう方も全然、違つたと思う。運転も、このあたりの坂はアイスバーンの連続で、事故続出エリアですよ。3日前だったら、地元の人でも恐くて、自宅に潜んでいましたよ。ゆつくり走つてもだめで、必ず滑りますから。これはやっぱり、祝福されたとしかしいようがないですねー」。本当に、アーメンです。

早朝まで雪が降つた最終日も、トラクト配布と午後の物資配布の時は、紺碧の青空とほかほか陽気、そして汚れなき、銀世界の美しさなのだから――。ただただ、主に感謝です。

## 十字架

午後は、仙台市若林区へ。2時からの予定だったのが、40分前には、すでに40人あまりの方々が待っていてくれました。40分待たせ続けるのは、さすがに寒くて申し訳ないので、20分前にスタート。2時に来た方も10人ぐらいいて、これも申し訳なく、卵とか、ティッシュ箱とか、なぜか出し忘れていた品をサーブしました。

「次、来られるのは、来月か再来月ですよ。みんなすごく喜んでますので」といつも場所を提供し、

皆さんに呼びかけてくださる、材木屋のE社長さん。

毎回、来られるJさんが言いました。「今、私の息子が着てる、これ、前回いただいたものですよ」。毎回、服を喜び、最後までずつと探しておられるVさんも。「この服、前回、もらったの。あつたかいし。この、かっこいいコートも。101匹わんちゃんの…。ありがとうございます」。

みんな、僕たちに感謝を表そうと、服を選んで着てくださったのだなーと思い、そのお気持ちにも感謝。Wさんは、前々回、支援物資の配布をしていた桑谷美穂事務局長を自宅にお茶に呼んでくださった方。桑谷事務局長を見つけ、「また、来てくれたのね。大工さんたちが我が家に十字架を作ってくれたの。見に行つてきて」と再び、招いてくれました。それで僕も一緒にいきました。被災して立て直した家の部屋のつ壁に、70センチぐらいの十字架が掲げられていました。

皆さんが、いろいろと応援くださったおかげで、ここまで回を重ねることができ、神さまの実を少しずつ見れているのだと思います。

いろいろと感謝です。このような機会を今回も与えてくださったこと、神さまに、そして、皆さんに心から感謝しています。どうぞ、被災地の皆さんのこと、また、これまで参加できたみんなのこと、続けてお祈りいただければ幸いです。◇

## 東日本大震災義捐金 受付口座

郵便振替	
00190-3-35461	チア・につぼん事務局
銀行	
三菱UFJ銀行赤羽駅前支店	
普通	1446697
ホームスクーリング・ビジョン(株)	

チア東北ボランティアの  
詳しい情報、感想文等は  
[www.cheajapan.com](http://www.cheajapan.com) へ、  
どうぞ!